スーツを着た男性

自動的に生成された説明

地域がん医療を推進する次世代放射線治療医育成コース責任者

青木　昌彦

（放射線腫瘍学講座　教授）

　放射線療法は手術療法や化学療法と並ぶがんの三大療法のひとつです。放射線療法には外部照射、密封小線源、核医学治療など、様々な治療法があり、低侵襲であること、機能と形態の温存ができることが大きな特長です。また、すべての悪性腫瘍を対象としていること、根治から緩和まで幅広い適応があることも放射線療法の特長と言えます。

　近年では、放射線物理学の進歩により、定位放射線治療、強度変調放射線治療、画像誘導放射線治療など、超精密な放射線治療に加え、粒子線治療やホウ素中性子捕捉療法など、新しい治療法が開発され、放射線療法への期待が益々高まっています。また、放射線生物学の進歩により、標的細胞の受容体に結合するアミノ酸分子に放射性物質を結合させた放射性医薬品が次々と開発され、核医学治療も注目を集めています。このように、放射線治療には、様々な照射法があり、それらの武器を最大限に生かして、がんの治療を専門的に扱うのが放射線治療医です。

　放射線治療医のほかに、放射線治療の品質保証と精度管理を担当する医学物理士や放射線品質管理士、機器の操作を担当する診療放射線技師、患者さんのケアを担当する看護師、患者さんの受付や連絡をサポートする事務職など、様々な職種が放射線治療に関わっており、放射線治療医はそのチームの中心的役割を担っています。更に、高齢化率の上昇に伴い患者のQOLに重点を置いた治療方針が重要視される時代、放射線治療医の果たす役割はますます重要になっています。

「地域がん医療を推進する次世代放射線治療医育成コース」では、がん医療の現場において、緩和的放射線治療から高精度放射線治療さらに核医学治療や小線源治療も含めた質の高い専門医療を個々の患者さんの病態に応じて提供することができ、かつ地域がん診療拠点病院において中心的役割を担うことができる医師を養成すべき人材像としています。

青森県を含めた東北地方では、放射線治療医が慢性的に不足しており、地域のがん医療を推進する人材育成が急務です。がん医療に興味がある人、新たな治療技術を開発したい人、地域のがん医療に貢献したい人など、多様な若手の人材に門戸を広げ、次世代のがん医療を担う放射線治療医を育成して参ります。